

総務一般

総 務 一 般

1 機構及び職種別人員（平成15年3月末日現在）

区 分	事務吏員	技術吏員	その他	計
所 長		1		1
次 長	1	2		3
総 務 課	3	5	3	11
企画情報室		3		3
資源研究部		4	1	5
養殖研究部		5	2	7
漁場環境研究部		3	1	4
利用加工研究部		2	1	3
内水面研究所		3	2	5
計	4	28	10	42

2 職員の職・氏名

<p>所 長 伊勢田弘志</p> <p>水産審議員（兼次長） 宮原 才郎（H14.4.1 転入）</p> <p>次 長 岩崎 洋</p> <p>次 長 神戸 和生</p> <p>総務課 次 長（兼総務課長） 岩崎 洋</p> <p>参 事 穂口能 婦子</p> <p>主 事 山下 利彦（H14.4.1 転入）</p> <p>主 事 三原 晶子</p> <p>船舶（ひのくに） 船 長 中島 憲一（H14.4.1 転入）</p> <p>機 関 長 岩崎 直人</p> <p>主任技師 松波 朝光</p> <p>技 師 徳永 幸史（H14.4.1 転入）</p> <p>技 師 水野 静春</p> <p>技 師 前田 健作</p> <p>技 師 坂本 和彦</p> <p>船舶（あさみ） 船 長 門 秀樹</p> <p>企画情報室 室 長 木村 修</p> <p>専 技 宮本 雅晴</p> <p>専 技 川崎 信司</p> <p>資源研究部 部 長 平山 泉</p> <p>主任技師 那須 博史</p> <p>主任技師 山下 博和</p> <p>技 師 内川 純一</p> <p>技 師 鳥羽 瀬憲久</p>	<p>養殖研究部 部 長 木村 武志</p> <p>研究参事 濱竹 芳久</p> <p>主任技師 梅山 昌伸（H14.4.1 転入）</p> <p>技 師 菊川 里</p> <p>技 師 野村 昌功</p> <p>技 師 藤田 忠勝</p> <p>技 師 浜田 峰雄</p> <p>漁場環境研究部 部 長 吉田 雄一</p> <p>技 師 吉村 直晃</p> <p>技 師 黒木 善之（H14.4.1 転入）</p> <p>技 師 小山 長久</p> <p>利用加工研究部 部 長 平山 泉（兼任）</p> <p>主任技師 村岡 俊彦</p> <p>主任技師 長山 公紀</p> <p>技 師 倉田 清典</p> <p>内水面研究所 所 長 南部 豊揮</p> <p>主任技師 松岡 貴浩</p> <p>技 師 木下 裕一</p> <p>技 師 栃原 正久</p> <p>技 師 増田 雄二</p>
--	---

3 職員の転出

石田 宏一 退職	鮫島 守 水産振興課
玉田 誠志 熊本県税事務所	安東 秀徳 水産振興課
浦壁 英輔 退職	
野口 健二 退職	

企 画 情 報 室

研究開発研修事業（^県 昭和 63 年度～^単 継続）

1 目 的

近年のめざましい水産技術の革新に的確に対応するため、各種技術研修を行うことにより職員の資質向上を図るとともに、これらの研修成果により効率的な試験研究を行い、本県の水産業の振興に資する。

2 方 法

(1) 担当者 川崎信司、木村修

(2) 方法

ア 魚病技術者研修

魚病対策に必要な技術者の育成及び魚類防疫士の養成を図るため、(社)日本水産資源保護協会が実施する魚類防疫士養成コースへ担当職員を派遣した。

イ DNA多型解析技術講習会

現在、先端的遺伝情報解析技術は、天然集団の種判別、系群判別や分子育種への応用など、県レベルでの応用が期待されている。そこで、先端的遺伝情報解析技術の取得のため、独立行政法人養殖研究所が開催する講習会へ担当職員を派遣した。

3 結 果

表1のとおり、魚病技術者研修の各コースを計3名が受講し、また、DNA多型解析技術講習会を1名が受講した。

表1 研修受講状況

研 修 名 (期日、日数×回数)	1 目 的 2 課目名 (テーマ) 3 内 容	講 師	受 講 者
		所属 氏名	
魚病技術者研修 ・魚類防疫技術者養成コース 本科第1年次研修 (期日：平成14年5月21日 ～6月7日)	1 魚病対策に必要な技術者の育成及び魚類防疫士の養成を図った。 2 第1年次研修 3 魚病診断に必要な魚病学総論等の基礎技術の講習	東京大学教授 若林久嗣 ほか9名	養殖研究部技師 菊川 里香
魚病技術者研修 ・魚類防疫技術者養成コース 本科第2年次研修 (期日：平成14年8月19日 ～9月5日)	1 魚病対策に必要な技術者の育成及び魚類防疫士の養成を図った。 2 第2年次研修 3 魚病診断に必要な魚病学総論等の講習及び実習による研修	東京大学教授 若林久嗣 ほか12名	養殖研究部技師 野村昌功 内水面研究所技師 木下裕一
DNA多型解析技術講習会 (期日：平成14年7月8日 ～7月12日)	1 種々の固定法による魚類標本からDNA抽出を行い、抽出過程の注意点を研修するほか、実際に抽出DNAをもとにPCR増幅の基礎と注意点ならびにPAPD-PCR法を中心としたDNA多型解析技術の実際を講習した。	養殖研究所遺伝育種部 原素之 ほか9名	養殖研究部技師 菊川 里香

水産業広報・研修事業（^県平成2年度～^単継続）

1 目的

- (1) 漁業者へ研究成果及び水産に関する最新の技術の普及・研修を行う。
- (2) 広く県民に対し水産業に関する情報を提供し、その啓発につとめる。

2 方法

- (1) 担当者 川崎信司、木村修
- (2) 内容

ア 広報事業

①研究成果発表会の企画・実施、②水研センターニュースの編集・発行、③事業報告書の編集・発行、④研修センターの管理・運用、⑤水産研究センターホームページの管理・運用、⑥研究報告書の編集・発行

イ 研修事業

①一般研修の受入、②教育研修(小学・中学・高校等教育機関における社会科学習、教職員研修、インターンシップ研修等)の受入。

3 結果

(1) 広報事業

ア 研究成果発表会の開催：平成15年2月21日に県庁A V会議室において、研究成果発表会を開催した。「荒尾地先におけるタイラギ資源の減少要因について」ほか3課題について発表した。参加者数は約70名であった。

また、平成14年12月11日に水産研究センター大研修室において、研究報告会を行った。各部より、2～5課題計21課題の報告を行った。

イ 水研センターニュースの発行：水研センターニュース「ゆうすい」第10号(平成15年3月)を発行し、県内漁協ほか関係機関に配布した。

ウ 事業報告書の発行：各部署から提出された原稿を編集し、平成13年度事業報告書として平成15年3月に発行した。また、印刷物を各県の水産試験研究機関ほか関係機関に配布した。

エ 研修センターの管理・運用：水産研究センターパンフレットを発行し、研修センターで来館者に配布した。平成14年度の来館者数は、18,527人であった。7月～8月の夏休み期間中に、干潟や浅海の生物を主としたタッチングプールを設置した。

また、9月24日に「水俣の漁業について」、3月10日に「水産物の脂質の機能が食品の劣化に及ぼす影響」及び3月14日に「身近な生物と環境」等の研修会を開催した。

オ 水産研究センターホームページを管理運営し、漁海況、漁場環境、赤潮情報の他、研究成果の報告等を含め、最新の情報を提供した。

(2) 研修事業

本年度の研修受け入れの実績を表1に現した。

ア 一般研修の受入：熊本市水産振興課他県内外の漁協、漁業関係機関等19件(延べ512人)の視察研修を受入れた。内容はノリ養殖や有明海の現状等の漁業振興に関するものが多かった。

イ 教育研修の受入：松島町立阿村小学校他小学校から大学までの教育機関関係等12件(延べ324人)の研修を受入れた。内容は、社会科学習、インターンシップ研修等で、特に地元小中学校などからの総合学習的な受け入れが増加している。

表1 主な研修受入実績

内容	期 日	研 修 者	人数	研 修 内 容
一般研修	04.22	大分県漁業協同組合	50	熊本県の底曳網漁業の現状
	06.11	九州農政局本渡統計情報出張所	8	有明海の現状及び漁業資源の確保
	06.22	熊本市立熊本博物館	33	センターの施設・業務の概要
	07.03	苓北町漁業協同組合	22	磯根の資源管理方法について
	07.06	長崎県瑞穂漁業協同組合青年部	7	センターの施設・業務の概要
	07.09	大矢野町中央公民館	50	講演会、海の問題について
	07.17	河内漁業協同組合	70	河内漁協婦人部研修
	07.17-19	熊本市漁業後継者	11	のり養殖、漁場環境の基礎知識
	07.20	兵庫県塩田漁業協同組合	35	栽培漁業について
	07.26	阿久根市漁業協同組合青年部	13	センターの施設・研究の概要
	09.19	広報課	7	くまもと女性特派委員視察研修
	09.26	本渡北老人大学	60	センターの施設・業務の概要
	10.10	韓国济州道济州郡の漁民	11	視察研修、魚類養殖について
	11.21	ダム関係者	40	河川、のり問題についての研修
	01.20-24	熊本市水産振興課	1	水産資源、養殖、環境等
	01.21	家畜衛生保健所	25	施設研修、水産、研究の概要
	02.24	八代漁業協同組合	18	水産研究の現場について
02.25-27	出水農林事務所水産課	1	のり養殖と病気対策	
03.16	水産物流関係者	50	県内産地見学及び意見交換会	
		小 計	512	
教育研修	05.11-25	熊本 YMCA	23	センターの見学、体験学習
	06.22	矢部町立御岳西部小学校	9	センターの見学、水産概要
	07.10	阿蘇町立尾ヶ石東部小学校	15	センターの見学
	07.13	大矢野町子供会	60	海の問題等に関する学習
	07.15-17	熊本県立大津高等学校	42	野外研修
	08.01-15	鹿児島大学	2	インターンシップ
	08.05	熊本県立北高等学校	12	センターの見学、水産の概要
	10.01	大矢野中学校	43	校外学習
	10.22	松島町立阿村小学校	34	センターの見学
	10.31	千葉県立国府台高等学校	6	校外学習
	11.05	松島町立今津小学校	38	センターの見学
03.14	熊本県立零明高等学校	40	地域産業視察研修	
		小 計	324	
		合 計	836	

漁業者専門研修事業（^県平成12年度～^単継続）

（漁業者セミナー）

1 目的

漁場環境の悪化、資源の減少、魚価の低迷など、現在の水産業を取り巻く状況には厳しいものがあり、この状況を打開するためには、人づくりが大切であると考えられる。

そこで、新しい知識や技術、最新の情報、他業種との交流の場等を提供することを目的として、漁業者向けのセミナーを開講する。

2 方法

(1) 担当者 川崎信司、木村修

(2) 方法

ア 内容

セミナーは、表1のとおり、教養、専門、沿海地域の3コースで構成し、9つの講座を設けた。

表1 セミナー内容

コース名	講座名	講座の目的	受講対象者
教 養 コース	基礎講座	将来の中核的漁業者の育成を図るため、近代的な漁業経営に必要な漁業・海洋に関する基本的な知識・技術を修得する。	漁業者 (漁協職員、市町 村職員含む)
	リーダー 養成講座	地域をリードする中核的漁業者として必要なリーダーシップのあり方や、人間関係に関する技術を修得する。	
専 門 コース	ノリ養殖講座	ノリ養殖業を営むための基本的知識と最新の技術を修得する。	
	魚類養殖講座	魚類養殖業を営むための基本的な知識と最新の技術を修得する。	
	漁船漁業講座	漁船漁業を営むうえで重要な知識と最新の技術を修得する。	
	利用加工講座	水産物の流通や加工等について、実習を中心として最新の技術を修得する。	
沿 海 地 域 コース	玉名教室	有明海北部のノリ養殖を中心とした漁業の個性ある発展をめざし、基礎的な知識と最新の技術を修得する。	
	水俣教室	不知火海南部の漁船漁業を中心とした漁業の個性ある発展をめざし、基礎的な知識と最新の技術を修得する。	
	牛深教室	天草南部の漁船漁業を中心とした漁業の個性ある発展をめざし、基礎的な知識と最新の技術を修得する。	

イ 受講対象者

主として県内漁業者を対象としたが、漁協職員・沿海市町水産関係職員、漁連、その他の水産関係団体職員等も受け入れた。

ウ 受講者の募集

年間計画の文書を、県内各漁協、漁業関係団体、沿海市町、県関係部署に配布した。また、各講座毎にFAX、水研センターホームページ等により広報するとともに、水産業改良普及員が普及現場において募集を行った。

3 結果

表2のとおり、平成14年6月3日から平成15年3月17日の期間に9講座を実施した。

参加者は、漁業者・漁協職員等で、各講座11名～39名が受講した。受講者が最も多かったのはノリ養殖講座であった。

延べ参加者数は180名となり、受講者には、修了証を発行した。

表2 漁業者セミナー実施状況

実施日 (場所)	講座名	講習内容	講師	参加者数
H15.01.29 (水研)	基礎講座	本県水産業の現状 漁業に関する法令と規則等 漁場環境の基礎知識 熊本県の青年女性漁業者等の先進的な取り組みについて	企画情報室 川崎専技 天草地域振興局水産課 加来主幹 漁場環境研究部 吉田部長 玉名地域振興局水産課 中尾参事 八代地域振興局水産課 石動谷主任技師 天草地域振興局水産課 渡辺参事	11
H15.02.17 (水研)	リーダー養成講座	青年・女性漁業者の組織的活動について 漁業就業者数の推移と今後の課題について 水産業におけるリーダーシップ	水産振興課普及流通係 栗崎参事 熊本県漁連指導部 藏田氏 「元」総合研究所 江崎氏	11
H14.07.18 (水研)	ノリ養殖講座	ノリ養殖に関する法律と規則 ノリ加工場の衛生管理 ノリ養殖の基礎知識 実習：カキ殻糸状体の脱灰及び検鏡 実習：ノリ葉体の検鏡	漁政課漁業調整係 南本係長 利用加工研究部 村岡主任技師 養殖研究部 濱竹研究参事 養殖研究部 濱竹研究参事 養殖研究部 濱竹研究参事	20
H15.03.17 (水研)	魚類養殖講座	消費者に安全安心を届けよう 安全安心な養殖魚を生産しよう① 安全安心な養殖魚を生産しよう②	県消費生活センター 西村参事 水産振興課環境養殖係 中野参事 養殖研究部 木村部長	20
H14.12.13 (水研)	漁船漁業講座	漁船漁業を取り巻く現状を知ろう 資源回復について考えよう 栽培漁業の現場を見よう 水産物を高く売ろう	企画情報室 川崎専技 水産振興課資源栽培係 平田主幹 資源研究部 内川技師 熊本県栽培漁業協会 水産振興課普及流通係 鮫島主任技師 利用加工研究部 村岡主任技師	12
H14.07.02 (水研)	利用加工講座	ノリゼリー製造の原理と方法 実習：ノリゼリー製造	利用加工研究部 村岡主任技師 利用加工研究部 村岡主任技師	39
H14.06.03 (滑石漁協)	玉名教室	漁業に関する法律と規則 ノリ加工場の衛生管理 ノリ漁場の環境 ノリ養殖の基礎	玉名地域振興局水産課 岡田主任技師 利用加工研究部 村岡主任技師 漁場環境研究部 吉田部長 養殖研究部 濱竹参事	20
H14.07.04 (環境センター)	水俣教室	熊本県における青年・女性漁業者の水産振興への取組み状況について クルマエビ資源増殖について 水産物のブランド化への取組み	水産振興課普及流通係 栗崎参事 資源研究部 内川技師 水産振興課普及流通係 鮫島主任技師	19
H15.02.17 (牛深市漁協)	牛深教室	熊本県海域における漁獲状況について	資源研究部 山下主任技師	28
合 計				180

水産業改良普及事業（国庫補助（昭和28年度～継続））

1 目的

沿岸漁業の生産性の向上、経営の近代化及び技術の向上を図るため、漁業者に対して技術及び知識の普及指導を行い、漁業者の自主的活動を促進する。

2 方法

- (1) 担当者 川崎信司、木村修
- (2) 方法 普及事業関係会議等の企画及び開催、水産業改良普及員の指導、漁業者に対する支援・指導等を行った。

3 結果

- (1) 普及事業関係会議等の企画及び開催
 - ア 水産業改良普及事業に関する下記の会議を企画、開催した。
 - ① 平成14年度水産業改良普及事業連絡会議（年3回開催）
 - イ イベント等の企画、実施
 - ① 第6回熊本県青年女性漁業者交流大会（県、県漁連共催：平成14年8月2日、熊本県民交流会館）
 - ② 第4回熊本県地魚料理コンテスト（県漁女連主催、県後援：平成14年7月30日、熊本市青年会館）
- (2) 水産業改良普及員の指導等
 - ア 各地域振興局水産課の例会に出席し、普及事業について指導した。
 - イ 漁村活性化ビジョン作成会議に出席した。
 - ウ 各地区の青年漁業者活動協議会に出席した。
 - エ 普及事業に関する報告書の取りまとめをおこなった。
- (3) 会議・研修会等への参加
 - ア 平成14年度熊本県農山漁村男女共同参画社会推進会議に参加した（4月30日、熊本市自治会館）。
 - イ 水産庁主催の「水産業専門技術員研修会」に参加した（6月5～7日、長崎市）。
 - ウ 平成14年度熊本県農山漁村グループの生活・生産に関する優良活動（高齢者集団活動）に関わる審査会に参加した（7月3日）。
 - エ 平成14年度九州ブロック漁業士研修会に参加した（8月19～20日、佐世保市）。
 - オ 平成14年度水産業改良普及職員九州ブロック研修会に参加した（10月15日～16日、宮崎市）。
 - カ 全国青年女性漁業者交流大会に参加した（3月5～6日、東京都）。
本県からの発表課題は下記の2課題
 - ・定休日でリフレッシュ我が家のノリづくりー 三角町漁業協同組合 山口純子氏（全漁連会長賞受賞）
 - ・おしかけ料理教室の開催をとおした魚食普及への取り組み 一天草地区漁業士会の活動状況についてー 天草地区漁業士会 関山哲也氏（農林水産大臣賞受賞）
 - キ 平成14年度女性・高齢者むらおこしフォーラム（3月18日、熊本市 テルサ）
- (4) 漁業者に対する支援・指導
 - ア 各地区漁業士会の総会、分科会等へ出席した。
 - イ 各地区漁業士会が実施する体験教室等へ参加した。